


「須佐は何をやっているのか！実績はあるのか！」



はい、こちらが3期目の須佐まもるの活動です。3期目は監査委員と総務経済常任委員長を務めました。

	令和元年・2年	令和3年・4年
役職	<p>監査委員</p> <p>監査委員は、人格が高潔で地方公共団体の財務・経営管理・行政運営にすぐれた見識を持つ者がつき、外部の圧力を受けることなく誠実かつ厳正に職務に当たることが『監査必携』に記されています。</p> <p>特に気を付けていたのが、健全な財政運営がなされているか、町民から疑念を受けるような行為がないか、職員が心身ともに健全に職務に当たっていたかなど。</p>	<p>総務経済常任委員会委員長、決算審査特別委員会委員長</p> <p>総務経済常任委員会は、総務課、企画調整課、税務課、観光産業課、建設整備課、会計課に属する事項を所管する。</p> <p>コロナ禍における町内産業従事者への聞き取り調査を実施し、国・県に要望・意見を提出するとともに、必要な事業を行うよう町当局に提言した。また、一次産業における後継者問題を一大事とみて所管事務調査を実施し議会で報告した。</p> <p>さらに、移住者に向けたアンケート調査を実施し、その結果を要望にしてまとめ町長に提出した。一方、一部事務組合の駿東伊豆消防議会議員として、東伊豆消防署へ念願のはしご車を納入しました。</p>
	<p>一般質問</p> <p>運転免許証の自主返納の取り組みとコミュニティ交通の推進、無電柱化の推進、台風15号19号の被害、その他、町長の政治姿勢について。</p> <p>※監査委員は一般質問を遠慮するのが慣例になっており、思うように質問できませんでした。</p>	<p>小中高一貫教育、修学旅行でのヒロシマ訪問、町の災害対応、アフターコロナを見据えた移住政策、里親制度への取り組み、コロナ禍での町内産業支援、風力発電施設の撤去、軍用機の低空飛行、経済政策、女性の管理職登用、観光地の廃墟の問題、熱川地区の観光整備と北川漁港の整備、入湯税の在り方、町が保有する源泉の活用、ひがしいず幼稚園の芝生化、湯ヶ岡=赤川線の早期開通、防災対策、町内産業の労働力不足解消に向けた取り組み、水道事業、白田川橋の架け替え、企業版ふるさと納税、町長の政治姿勢についてなど。</p>
<p>議員としての取り組み</p>	<p>① 移住推進をライフワークとし、県が音頭をとる「賀茂地域ふれあい事業」の一員として加わり、東京の相談会などに積極的に参加した。</p> <p>② コロナ対応に奔走。議員個人の活動でも知事に直接面会し、伊豆半島の現状を訴え要望を手渡した。</p> <p>③ 熱川支所について、他の議員が郵便局への委託に賛成するなか、一人反対し支所の廃止にストップをかける。</p> <p>④ 白田川橋の老朽化にかんがみ、周辺住民への情報提供や不便を訴える声を町へ届ける。</p> <p>⑤ 町営風力発電所の民間譲渡は、その大きさや規模から周りに与える影響が大とみて慎重な姿勢で臨んだ。</p> <p>⑥ 防災士として町内の危険区域の監視を行う。また、昨年の台風8号で被害を受けた松崎町雲見地区の災害ボランティアに参加した。</p>	<p></p> <p>コロナ禍の産業停滞を受け、川勝知事に要望を提出。(令和3年5月)</p>



全線開通へ向け整備が進む「湯ヶ岡=赤川線」。まだまだ長い道のり…。